

第3号

黒田大明神原B遺跡 通信



2021年12月15日発行

◆遺跡の発掘調査が終了しました。

黒田大明神原B遺跡の発掘調査は11月30日(火)で終了しました。みなさまのご理解とご協力ありがとうございました。11月は調査区北側の縄文時代の竪穴建物跡1軒と弥生時代の竪穴建物跡5軒の調査を行いました。建物跡からは土器や石器などが出土しています。

◆縄文時代の竪穴建物跡

縄文時代の竪穴建物跡が調査区北東で1軒見つかっています。大きさは直径約3mの円形に近い形をしていて、深さは20cm程です。柱穴と中央に炉があります。この建物跡が埋まっていく過程で石などと一緒に土器、小ぶりの打製石斧(だせいせきふ)や黒曜石製の石鏃(せきぞく)などの石器が遺構の中央部に廃棄されています。土器の形や模様から縄文時代中期前半の建物跡と考えています。



竪穴建物跡の遺物出土状況(縄文時代)

◆弥生時代の竪穴建物跡

弥生時代の竪穴建物跡が調査区北側で5軒見つかっています。一番大きい建物跡では平面が5×4.3mの長方形で、深さは40cm程です。柱穴、入口施設のための穴、炉があります。

建物跡の土を掘っていくと2つ特徴があります。1つめは土器などの遺物がまったくないか、わずかな量しか出土しないこと。もうひとつは床面が非常に締め固められていること。ともに弥生時代後期の標高が高い段丘上にある周辺の集落遺跡の建物跡と特徴が同じことがわかってきました。



竪穴建物跡の完掘状況(弥生時代)

◆台地の上の集落跡の全貌

これまでの調査結果から集落の広がりを考えてみました。

遺跡の北側では今回の見つかった弥生時代の竪穴建物跡のうち3軒が崖で一部削り取られて無くなっています。削られた部分にも弥生時代の建物が続いていくと考えられることから、台地が北側にもう少し広がって存在したことがわかってきました。

南側は飯田市教育委員会の第一次調査で確認された湿地へ向かう埋没谷が、今回のトレンチ調査でも確認され、集落が広がらないことが確認されました。

西側は建物跡など遺構がまったく無く、集落が調査区内から始まっていくと考えています。

東側は飯田市教育委員会が調査している現場から同じ時代の竪穴建物跡が見つかっており、県道15号線（通称フルーツライン）まで集落が広がっていると考えられます。

黒田大明神原B遺跡は、栃ヶ洞（とちがほら）川に面した台地上の東西に長細い平地の上に広がる、縄文時代と弥生時代の集落跡であることが今回の調査でかなりわかってきました。

今後は飯田支所で写真や図面等の資料や土器石器などの基礎整理作業を行っていきます。



黒田大明神原B遺跡の上空西側から撮影



黄線は縄文時代の竪穴建物跡、赤線が弥生時代の竪穴建物跡（写真の上が北）

冬季は支所で
土器洗いをす
るよ！



長野県埋蔵文化財センター飯田支所
発掘現場担当：平林 彰/鈴木 時夫

TEL：0265-49-0736

埋文公式ホームページ：

<http://naganomaibun.or.jp>